

A-2					
主題		誤嚥性肺炎を繰り返す胃瘻の方への経口常食への取り組み			
副題		食べたい希望を叶える			
キーワード 1	誤嚥性肺炎	キーワード 2	嚥下評価	研究(実践)期間	5ヶ月

法人名・事業所名	社福) 東京武尊会 東京令和館 中野				
発表者(職種)	深野延江(介護職)				
共同研究(実践)者					

電 話	03-3386-8038	F A X	03-3386-8037
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	2020年4月に中野区に開設。私たちは、専門的な理論に基づく自立支援介護を実践することにより、地域の高齢者が失われた自立性を取り戻し、いつまでも住み慣れた場所で安心して暮らしていけるよう支援します。お元気な方はより元気に、重度の方も自立性が回復できるように、一貫したケアを提供します。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

一般的に特別養護老人ホームでは、胃瘻の方が経口摂取不可と診断されると、辛うじてゼリーなどの味を楽しむ程度に留まり、常食には移行できない現状が見受けられる。A氏は他施設入居中誤嚥性肺炎を何度も繰り返し、2019年8月经口摂取不良にて胃瘻造設。その後嚥下リハにて2回VE検査を行うも、唾液貯留、唾液誤嚥が見られ3食経口摂取不可と判断されたため、ご本人・ご家族の「食べたい」という強い希望が聞かれていても、特別養護老人ホームでは、中々叶えることが出来ない現状がある。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

当施設では、開設時より自立支援介護を導入し、胃瘻から経口常食への取り組みを行なっている。A氏のVE検査結果から、食塊形成不十分による咽頭残留がみられていたため、原因としては、水分不足、歯の欠損による咀嚼不十分(食塊形成不十分)、飲み込む際の陰圧不足でうまく飲み込めていないためと推測した。体幹保持も持続不可の為食べている際の姿勢も崩れやすく誤嚥しやすい、また胃瘻造設の為逆流性による不顕性誤嚥も発生していたと考えられる。以上の原因が誤嚥性肺炎を繰り返していたと推測される。原因を明確にして取り組むことで経口摂取可能と考える。

《3. 具体的な取り組みの内容》

A様 70歳 男性 要介護度4

入居日に口腔内の状態を確認し誤嚥しやすい要因追及。口腔内チェックには棒付き飴とゼリーを使用した。棒付き飴で、開口・閉口、手を使わずに飴を舌だけで動かすことができるか、唾

液流出の有無、ムセの有無などをアセスメントし、課題選出後介護計画を立て取り組みを開始する。

食事以外の ADL 向上についても同時に取り組んだ。

《4. 取り組みの結果》

義歯作成するまでの間、食事以外の ADL 向上目指し介護計画を立てて取り組み、排泄は下剤中止し布パンツ使用でトイレ排泄可能、歩行は、車椅子からハンディーウォーカー移動可能・階段昇降も可能となる。適合義歯が完成することで、食事は 3 食常食を自力摂取可能となり、咀嚼もきちんと出来るようになったため、開口度も 15 mm から 30 mm となる。体重(BMI)は 42.7 kg(15.1)から 48.8 kg(17.3)と増加し、姿勢も保つことが出来るようになった。

咀嚼機能も回復し良質な食塊形成が可能となることで、嚥下反射も問題なく機能し結果、誤嚥性肺炎を再発することなく経口常食へと移行できた。

《5. 考察、まとめ》

胃婁の方は、繰り返す誤嚥性肺炎・VE 検査による経口不可の評価を受けてしまうと、経口常食への移行は益々できなくなる。A 様は前施設で嚥下機能だけに目を向け「嚥下反射の回復」が見込めないため、経口常食への移行ができなかった。竹内氏の「安全な摂食嚥下は良好な食塊が作れるかに大きく関係する」との考えを基に、「咀嚼機能回復」にポイントをおき取り組むことで、もう一度経口常食への移行が可能となっている。また、誤嚥性肺炎の再発防止として誘因となっている①脱水②低栄養③寝かせきり④口腔の汚れ⑤胃からの逆流防止・改善にも取り組むことで誤嚥性肺炎を再発せず現在に至ると考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

1) 「新版介護基礎学」(2017)、竹内孝仁、医歯薬出版

《8. 提案と発信》

介護職員もアセスメント・課題選出・介護計画をきちんと立て取り組むことで、効率よく利用者の ADL 向上に繋げることができる。また適合義歯作成できる歯科医と連携を取ることが出来れば、特別養護老人ホームでも経口移行に取り組む施設が増えると考ええる。